令和７年度薬学教育自己点検・評価結果

（１）令和７年度卒業時アンケートの集計データ分析

薬学部においては、学生の卒業に際し、４年間又は６年間の薬学教育により身に付けることができた知識、技能及び能力について、アンケート形式で自己評価をしてもらい、アンケート結果は、薬学科（表１−１）と創薬科学科（表１−２）を区別して集計した。回収率は薬学科100％（49名中49名回答）、創薬科学科77.8％（36名中28名回答）であった。

なお、アンケートでは学生に、「１：十分身に付けることができた」、「２：ある程度身に付けることができた」、「３：あまり身に付けることができなかった」、「４：全く身に付けることができなかった」の４つの選択肢から１つを選んでもらうこととしており、薬学教育自己点検・評価においては、１及び２の選択肢を選んだ場合「身に付けることができた」、３及び４の選択肢を選んだ場合は「身に付けることができなかった」として判断した。図１、２にはそれぞれ薬学科、創薬科学科の過去６年間の集計結果の推移を示した。

＜１．全学共通項目（表１−１、表１−２、図１、図２）＞

薬学科の学生（表１−１、図１）については、項目**１）「課題や問題を自ら解決する能力」**（93.9％）、**２）「組織や社会の一員として責任を持って行動する能力」**（91.8％）、**４）「口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力」**（93.9％）、**８）「専門教育による深い専門知識・技能」**（98.0％）、**９）「幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力」**（93.9％）において、「身に付けることができた」と評価した学生の割合が前年度（令和６年度）に引き続き90％以上と高水準を維持した。特に８）については、「１：十分身に付けることができた」とする割合が年々増加し、57.1％に達しており、専門知識・技能の修得に関する教育が一定の成果を上げていることが示された。また、**３）「他者と協力し合うコミュニケーション能力」**については前年度よりも3.9ポイント低下したものの、89.8％と高い水準を保っていた。

上記６項目以外の、**５）「母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く、話す、読む、書く）」**（44.9％）、**６）「国際的な視点で考えることや国際的な感覚」**（40.8％）、**７）「教養教育等による幅広い知識」**（69.4％）、**10）「地域を志向する意識（富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識）**（59.2％）の４項目における「身に付けることができた」と評価した割合は、前年度よりもそれぞれ10.7ポイント、2.0ポイント、3.6ポイント、10.7ポイント低下したものの、過去５年間の平均値並みの水準を保った。

依然として、**５）「母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く、話す、読む、書く）」**（44.9％）と、**６）「国際的な視点で考えることや国際的な感覚」**（40.8％）の２項目については50％を下回り、他の項目と比較して自己評価が低い傾向が続いており、グローバル化に対応するための教育について、さらなる充実が望まれる。ただし、５）については本評価開始以来、前年度（55.5％）に次いで高い水準であり、令和３年度から卒業論文発表の英語表記化など、英語能力の向上を目指した各取組を実施し、一定の効果は現れてい

る。今年度から、３年次後期科目「専門英語Ⅱ」の単位認定要件を変更し、TOEIC試験450点以上の成績を収めることを必須とした。引き続き、語学教育についてさらにレベルを上げるための方策を検討する必要がある。

過去6年間の推移（図１）を見ると、いずれの項目も評価が高まる傾向にある、あるいは、高いまま維持していることから、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力の修得に向けた教育が概ね適切に実施されていると判断できる。

創薬科学科については、定員を50名から35名へ変更した令和4年度の改組時に入学した学生が本アンケート回答者の大半を占める。創薬科学科の学生（表１－２、図２）については「身に付けることができた」と評価した割合が、10項目全てにおいて前年度より低下したものの、一昨年度比では８項目が上昇しており、全体的に過去５年間の評価と比較して、同程度またはより高い水準を保った。また、**２）「組織や社会の一員として責任を持って行動する能力」**（92.9%）、**３）「他者と協力し合うコミュニケーション能力」**（92.9%）、**８）「専門教育による深い専門知識・技能」**（96.4%）、**９）「幅広い知識、深い専門知識・技能の修得により、社会で活躍できる能力」**（96.4%）については90%以上、**１）「課題や問題を自ら解決する能力」**（89.3%）、**４）「口頭発表、説明、討論などのプレゼンテーション能力」**（89.3%）、**７）「教養教育等による幅広い知識」**（85.7%）については80%以上であり、**５）「母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く、話す、読む、書く）」**（67.9%）、**６）「国際的な視点で考えることや国際的な感覚」**（64.3%）、**10）「地域を志向する意識（富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識）」**（71.4%）を含む全ての項目で60%を上回っており、特に「十分身に付けることができた」と感じる学生が年々増加傾向にあることから、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力の修得に向けた教育が概ね適切に実施されていることが示された。ただし、**１）「課題や問題を自ら解決する能力」**（89.3%）、**10）「地域を志向する意識（富山を通して、地域社会における諸課題を理解し、貢献しようとする意識）」**（71.4%）の２項目については前年度よりも10ポイント以上低下していることから、改組時のカリキュラム変更の効果について、引き続き注意深く検証していく必要がある。

＜２．薬学部独自項目（表１−３、図３、図４）＞

卒業時アンケートにおいては、全学共通項目に加え、薬学部の各学科に特化した内容の項目について、学科別にアンケート調査を実施した。

薬学科では（表１−３、図３）、医療や薬剤師に関連する項目として挙げた**12）「健康と疾患に対する洞察力」**（98.0%）、**13）「薬剤師業務に関する基本的技能」**（100%）、**14）「薬物療法の実践および公衆衛生の向上に寄与する能力」**（98.0%）の全てにおいて高い達成度評価が示されており、また**15）「本学の教育が今後の進路決定に役立った」**とする回答も91.8%に達していた。これらはここ数年、高い値のまま推移していることから、６年間の薬剤師養成教育が適切に実施されており、学生の達成度評価は高い水準にあることが示された。なお、アンケート収集時に指示を徹底した結果、無回答がゼロとなった。

創薬科学科では（表１−３、図４）、**12）「自然現象に対する知的好奇心・探求心」**(67.9%)、**13）「創薬科学に関する幅広い学識と実験技術等」**（82.1%）、**14）「医薬品創出に取り**

組むために必要な創造的思考力」（78.6%）について、前年比でそれぞれ、27.4ポイント、17.9ポイント、19.1ポイント低下した。また15）「本学の教育が今後の進路決定に役立った」とする回答も85.7%であった。ただし、独自アンケートについて、無回答者が４名おり、アンケートの収集方法などに問題がなかったか引き続き検討する必要がある。無回答の評価傾向は不明であるものの、回答者に限定して集計した結果では、例年と比較して大きな差異は認められなかった。今後も、創薬科学科の学生に対し、創薬研究者として必要な素養を高めることやより専門性の高い教育を提供することを継続していく。

以上の令和７年度卒業時アンケートの分析結果から、薬学科及び創薬科学科のいずれにおいても、学生のディプロマ・ポリシー達成度は概ね良好な水準にあると評価された。一方で、前年度と比較すると、一部の項目では評価の低下が見られたことから、その要因について継続的に検証する必要がある。また、語学教育をはじめとするグローバル化へ対応や、創薬研究者としての資質・能力をより一層高めるための教育については、さらなる充実に向けて継続的に改善方法を検討していく必要がある。

（２）令和７年度における修学状況データ分析

＜１．学年別在籍状況（表２−１）＞

ストレート在籍率は、薬学科ではいずれの学年においても93%以上、創薬科学科では95%以上となっており、昨年の調査よりも値は低下していない。例年と同様に、留年者等の過度な発生状況はないと判断できる。

＜２．学年別進級率（表２−２）＞

薬学科の令和７年度データでは、全学年において進級率93%以上と高水準となっていることから、休学・退学・留年者数は、適正な範囲内と判断され、学生に対するフォローアップが適正に行われていると判断できる。

創薬科学科の令和７年度データでは、全学年において進級率が90%以上となっており、また令和３年度以降の５年間で最も高い割合となったことから、休学・退学・留年者数は、概ね適正な状況といえる。留年者数は最少であった前年と同数の5名であり、退学者数は最少であった令和3年度と同数の3名であった。令和４年度から創薬科学科の定員が15名減員となった影響もあるものの、学生に対するフォローアップが適正に行われている結果と判断できる。

＜３．卒業状況（表２−３）＞

薬学科のストレート卒業率は87%で、前年度（97%）よりも低下したものの、以前として高い水準を維持していた。また、６年次生の卒業率は前年に引き続き100%であった。引き続き、６年次生の卒業率を高く維持するための、研究室レベルでの学生のサポートのあり方についても検討を重ねていく必要がある。

創薬科学科は、定員を50名から35名へ変更した最初の学年が令和７年度に卒業年次（４年次）を迎えた。ストレート卒業率は80%と例年と同レベルであり、４年次生の卒業率は100%であった。ストレート卒業率のさらなる向上に向けて、入学者確保の方策や、学修支

援の在り方について継続的に検討する必要がある。

以上、令和７年度における修学状況データ分析結果から、現状の学生受入れ水準設定やカリキュラム編成、成績評価は、両学科ともに適正に機能していると評価した。

（３）様々な社会状況を踏まえた、教育研究上の目的および３ポリシーの妥当性の検証

薬剤師の地域偏在が問題化する中、富山県内における薬剤師の供給不足解消に貢献するため、令和６年度の入学者選抜（令和５年度実施）から、新たに富山県内の高等学校出身者を対象とした「総合型選抜（地域枠）」を導入した。それに対応する３ポリシーの改正を前年度（令和４年度）に実施し（令和４年度第11回薬学部教授会（R5.2.8））、令和６年度入学生から適用している。

医療を取り巻く近年の著しい社会構造の変化を受けて、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯にわたって活躍し、社会のニーズに応える医療人の養成が求められる中、令和４年度に薬学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂された。この令和４年度改訂版では、「薬剤師として求められる10の基本的な資質･能力」が定められたことから、これらの資質･能力を卒業時に評価可能な形でディプロマ・ポリシーの中に示すことが必要となった。10の基本的な資質･能力のうち８項目についてはすでにディプロマ・ポリシーの中に示されていると判断し、残り２つの（３.生涯にわたってともに学ぶ姿勢）及び（６.情報･科学技術を活かす能力）について、対応する文言をディプロマ・ポリシーに追加した（令和５年度第10回薬学部教授会（R6.1.17））。

また、新しいモデル・コア・カリキュラムの下では、従来のプロセス基盤型教育から学修成果基盤型教育への転換が求められている。ヒューマニズム教育・医療倫理教育やコミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための教育において、総合的な目標達成度と各科目の目標到達度をそれぞれ評価するための指標を設定し、それに基づいた評価を行うことが必要となるため、本学薬学部では、これらをレーダーチャートやルーブリックを用いて形成的かつ総括的に評価することを決定し、その記述をカリキュラム・ポリシーに追加した（令和５年度第10回薬学部教授会（R6.1.17））。

薬学教育モデル・コア・カリキュラムは薬学科のみに適用されるものであるが、創薬科学科についても教育方針との整合性を確保する観点から同様の修正を行うことが妥当と判断し、カリキュラム・ポリシーの修正を行った（令和５年度第10回薬学部教授会（R6.1.17））。

令和7年度においては、上述したこれまでの対応を鑑みて、教育研究上の目的および３ポリシーが、現在の社会状況を踏まえたものとなっており、かつ、一貫性、整合性のあるものとなっているため、現時点では大きな改正を要する事項は認められないと判断した（令和７年度第8回薬学部教授会（R7.11.19））。令和６年度以降入学者用の薬学科および創薬科学科の教育研究上の目的および３ポリシーを表４−１、４−２に示す。

以上、薬学部では社会状況に応じた改革を実施するとともに、３ポリシーの修正を実施してきた。したがって現在の教育研究上の目的および３ポリシーは妥当なものであると言える。

（４）「薬学教育評価第二期評価基準と観点への対応状況」についての自己点検・評価

2026年度が薬学教育評価機構による第三者評価受審のための自己点検・評価書提出年度にあたることから、「薬学教育（６年制）第三者評価 評価基準」に記載された『基準』と『観点』への対応状況を点検・評価した。その結果、概ね対応できていると判断できるものの、以下の点については対応する必要がある、あるいは今後も継続して実施する必要があると考えられた。

１．教育研究上の目的と三つの方針

- 全ての学年に対し、年度始めのガイダンスで教育研究上の目的、三つの方針を周知すること。（教務委員会・教授会）
- 教員に対しても、将来構想等懇談会等を通じて周知することが望ましい。（教務委員長）
- 教育研究上の目的、三つの方針について、医療を取り巻く環境や薬剤師に対する社会のニーズの変化を調査した結果等を踏まえて計画的・定期的に検証すること。（教務委員会・教授会）

２．内部質保証

- DP達成度についてのルーブリック評価を令和６年度入学生から始めているが、そのデータ収集と解析を実施すること。（教務委員会・教授会）
- 学修成果の評価結果を、教務委員会・教授会で審議し、教育課程の編成及び実施の改善・向上に活用すること。（教務委員会・教授会）

３．薬学教育カリキュラム ３－１．教育課程の編成

- カリキュラム・マップにおいて、DPと科目の関連性が不明瞭であるので、関連性が理解できるマップ等を学生に明示すること。（教務委員会・教授会）
- 「薬学英語Ⅰ」と「薬学英語Ⅱ」、「専門英語Ⅰ」と「専門英語Ⅱ」、「実践薬学Ⅰ」と「実践薬学Ⅱ」の間で到達目標が全く同じであることは順次性や系統性において問題であり、それぞれの講義内容を反映したシラバスに改善することが望ましい。（担当教員）

３．薬学教育カリキュラム ３－２教育課程の実施

- シラバスに成績評価について「総合的に評価を行う」としている場合（「生物系実習(微生物化学)」、「機器分析」）、評価の基準の詳細まで記載すること。（担当教員）
- 各科目の成績評価、および卒業研究のルーブリックを用いた評価については、各教員が評価の根拠となる資料を保管しておくこと。（各教員）
- 成績評価の異議申し立てについて、履修の手引きには医学部のものしか掲載されていないので、異議申し立て制度が学生に周知されるよう、年度始めのガイダンスで周知すること。（教務委員長）

- カリキュラム検討部会で上がった意見について、対応可能な事項を実施すること。（教務委員会・教授会）

３．薬学教育カリキュラム　３－３学修成果の評価

- DP達成度についてのルーブリック評価を令和６年度入学生から始めているが、３年次後期からは、学生の自己評価だけでなく、指導教員による評価とそれを用いた指導を実施すること。（各教員）
- DPに示した５つの能力の修得度をレーダーチャートで可視化しているが、令和６年度以降の入学生に対し、それを用いた指導を実施すること。（各教員）
- レーダーチャートについては、卒業時の最高達成度を100として集計し、学年進行に伴う到達率を見える化することが望ましい。（教務委員会・教授会）

４．学生の受入れ

- 学生の入学区分（学校推薦・地域枠・研究者養成枠・前期・後期）ごとに進級率やGPA、レーダーチャートの値を用いて質的・量的分析を行い、選抜方法の適性を検証すること。（入学試験委員会・教授会）
- 面接のない前期試験においても「医療人を目指す者としての資質と能力」を評価できるよう検討することが望まれる。（入学試験委員会・教授会）

５．教員組織・職員組織

特になし

６．学生の支援

- 定期健康診断の受診率が100％となるよう取り組むことが望ましい。（教務委員会・学務課）
- 授業評価アンケートの回収率を上げることが望ましい。（教務委員会・学務課）

７．施設・設備

特になし

８．社会連携・社会貢献

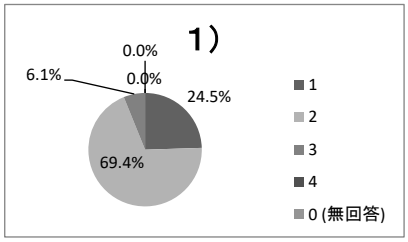
特になし

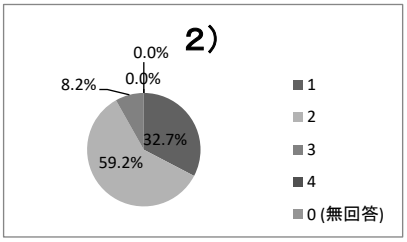
表1－1

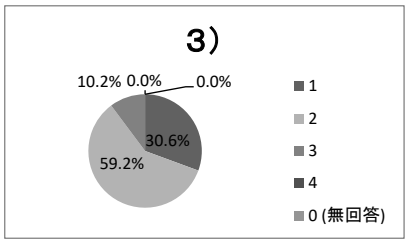
卒業時アンケート集計（全学・薬のみ集計）

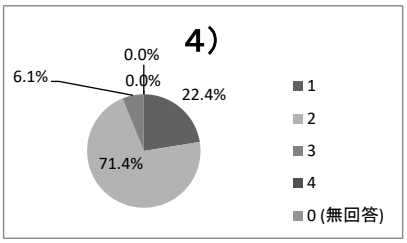
在学時に，以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

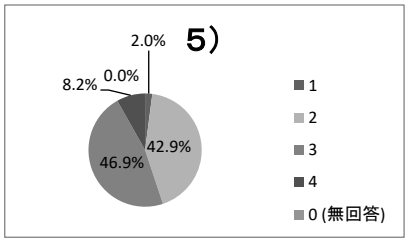
	アンケート項目	選択肢	2026	比率
1)	課題や問題を自ら解決する能力	1	12	24.5%
		2	34	69.4%
		3	3	6.1%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
2)	組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	16	32.7%
		2	29	59.2%
		3	4	8.2%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
3)	他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	15	30.6%
		2	29	59.2%
		3	5	10.2%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
4)	口頭発表，説明，討論などのプレゼンテーション能力	1	11	22.4%
		2	35	71.4%
		3	3	6.1%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
5)	母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く，話す，読む，書く）	1	1	2.0%
		2	21	42.9%
		3	23	46.9%
		4	4	8.2%
		0（無回答）	0	0.0%
6)	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	3	6.1%
		2	17	34.7%
		3	21	42.9%
		4	8	16.3%
		0（無回答）	0	0.0%
7)	教養教育等による幅広い知識	1	6	12.2%
		2	28	57.1%
		3	15	30.6%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
8)	専門教育による深い専門知識・技能	1	28	57.1%
		2	20	40.8%
		3	1	2.0%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
9)	幅広い知識，深い専門知識・技能の修得により，社会で活躍できる能力	1	15	30.6%
		2	31	63.3%
		3	3	6.1%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
10)	地域を志向する意識（富山を通して，地域社会における諸課題を理解し，貢献しようとする意識）	1	5	10.2%
		2	24	49.0%
		3	17	34.7%
		4	3	6.1%
		0（無回答）	0	0.0%
11)	本学での学生生活で得られたこと，あるいは得られなかったことについて，意見がありますか。 → 自由記述としたため別紙			

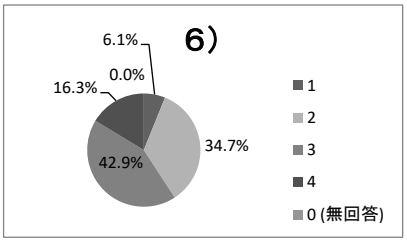


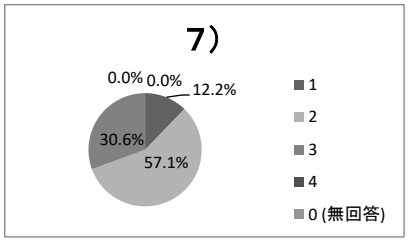


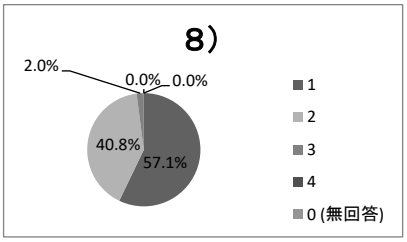


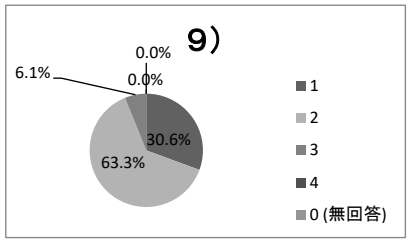


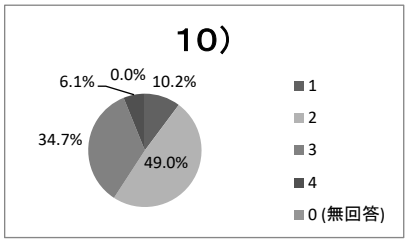












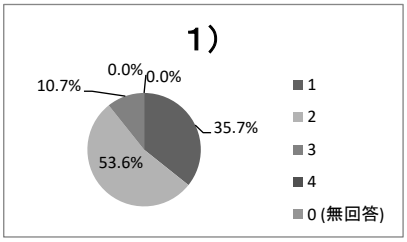
1．十分身に付けることができた　2．ある程度身に付けることができた
3．あまり身に付けることができなかった　4．全く身に付けることができなかった

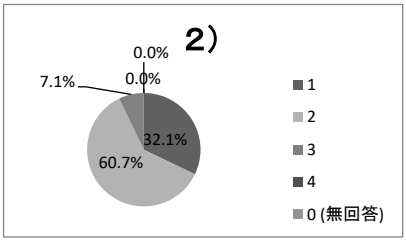
表1－2

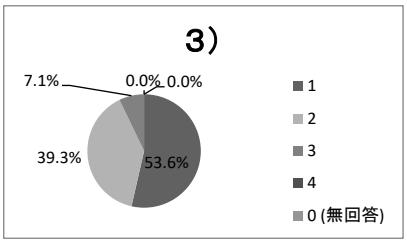
卒業時アンケート集計（全学・創薬のみ集計）

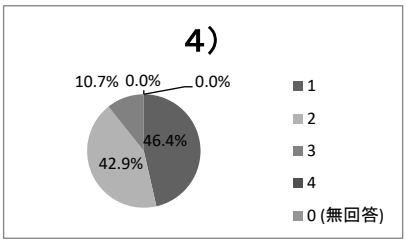
在学時に，以下の能力等をどの程度身につけることができたと思いますか。

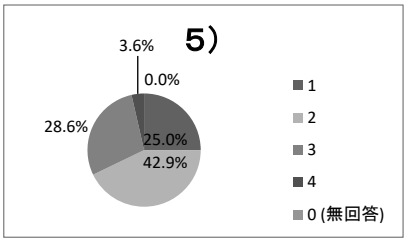
	アンケート項目	選択肢	2026	比率
1)	課題や問題を自ら解決する能力	1	10	35.7%
		2	15	53.6%
		3	3	10.7%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
2)	組織や社会の一員として責任を持って行動する能力	1	9	32.1%
		2	17	60.7%
		3	2	7.1%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
3)	他者と協力し合うコミュニケーション能力	1	15	53.6%
		2	11	39.3%
		3	2	7.1%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
4)	口頭発表，説明，討論などのプレゼンテーション能力	1	13	46.4%
		2	12	42.9%
		3	3	10.7%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
5)	母語以外の外国語（英語など）の語学力（聞く，話す，読む，書く）	1	7	25.0%
		2	12	42.9%
		3	8	28.6%
		4	1	3.6%
		0（無回答）	0	0.0%
6)	国際的な視点で考えることや国際的な感覚	1	6	21.4%
		2	12	42.9%
		3	9	32.1%
		4	1	3.6%
		0（無回答）	0	0.0%
7)	教養教育等による幅広い知識	1	10	35.7%
		2	14	50.0%
		3	3	10.7%
		4	1	3.6%
		0（無回答）	0	0.0%
8)	専門教育による深い専門知識・技能	1	11	39.3%
		2	16	57.1%
		3	1	3.6%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
9)	幅広い知識，深い専門知識・技能の修得により，社会で活躍できる能力	1	9	32.1%
		2	18	64.3%
		3	1	3.6%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
10)	地域を志向する意識（富山を通して，地域社会における諸課題を理解し，貢献しようとする意識）	1	8	28.6%
		2	12	42.9%
		3	7	25.0%
		4	1	3.6%
		0（無回答）	0	0.0%
11)	本学での学生生活で得られたこと，あるいは得られなかったことについて，意見がありますか。 → 自由記述としたため別紙			

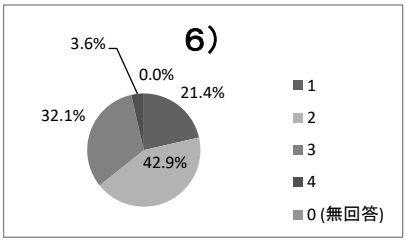


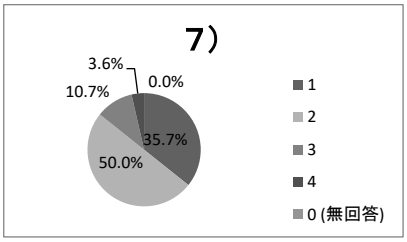


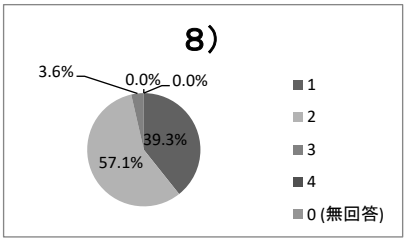


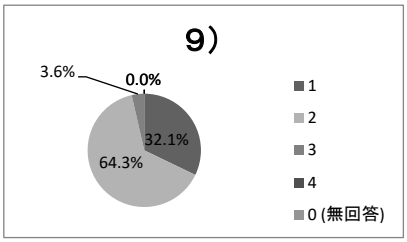


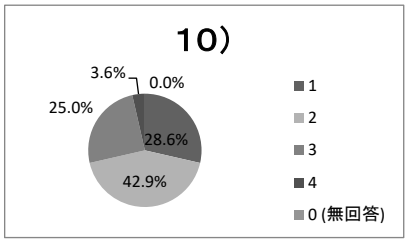










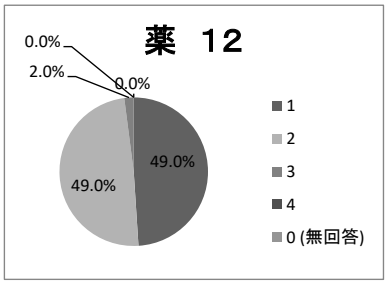


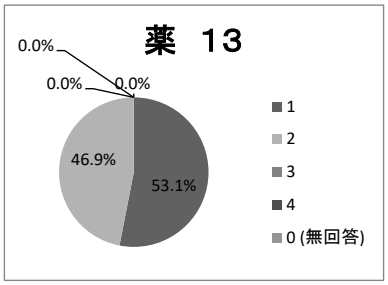
1．十分身に付けることができた　2．ある程度身に付けることができた
3．あまり身に付けることができなかった　4．全く身に付けることができなかった

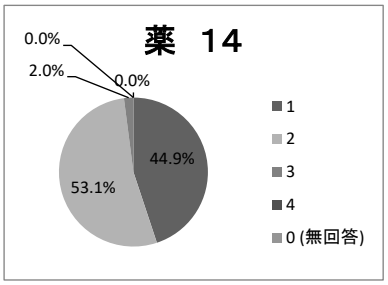
卒業時アンケート集計（薬学独自）

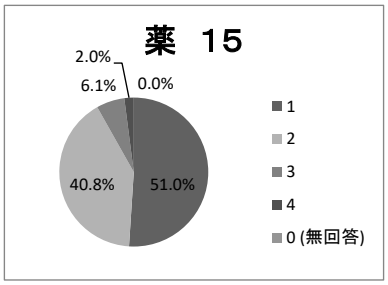
薬学科

	アンケート項目	選択肢	2026	比率
12	健康と疾患に対する洞察力を身に付けることができましたか	1	24	49.0%
		2	24	49.0%
		3	1	2.0%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
13	薬剤師業務に関する基本的技能を身に付けることができましたか	1	26	53.1%
		2	23	46.9%
		3	0	0.0%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
14	薬物療法の実践および公衆衛生の向上に寄与する能力を身に付けることができましたか	1	22	44.9%
		2	26	53.1%
		3	1	2.0%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	0	0.0%
15	本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	25	51.0%
		2	20	40.8%
		3	3	6.1%
		4	1	2.0%
		0（無回答）	0	0.0%





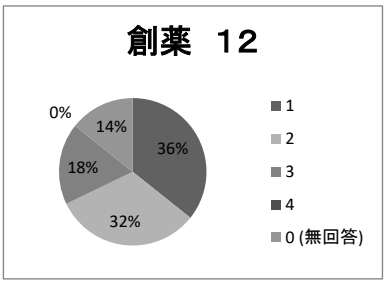


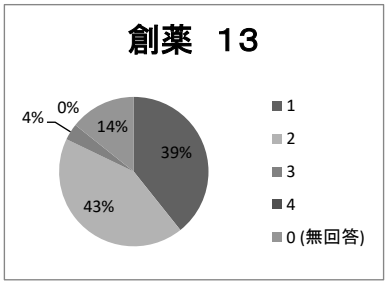


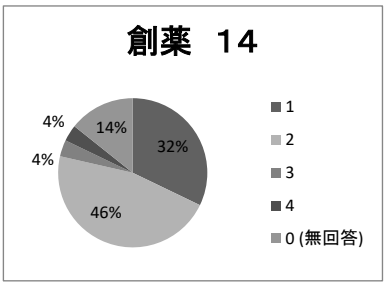
1．十分身に付けることがができた　2．ある程度身に付けることができた
3．あまり身に付けることができなかった　4．全く身に付けることができなかった

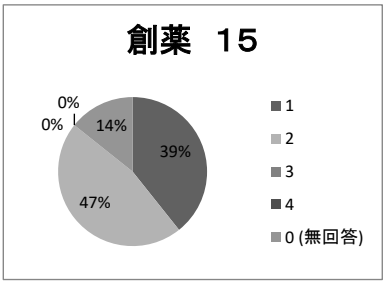
創薬科学科

	アンケート項目（創薬科学科）	選択肢	2026	比率
12	自然現象に対する知的好奇心・探求心を身に付けることができましたか	1	10	35.7%
		2	9	32.1%
		3	5	17.9%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	4	14.3%
13	創薬科学に関する幅広い学識と実験技術等を身に付けることができましたか	1	11	39.3%
		2	12	42.9%
		3	1	3.6%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	4	14.3%
14	医薬品創出に取り組むために必要な創造的思考力を身に付けることができましたか	1	9	32.1%
		2	13	46.4%
		3	1	3.6%
		4	1	3.6%
		0（無回答）	4	14.3%
15	本学の教育が今後の進路決定に役立ったと思いますか	1	11	39.3%
		2	13	46.4%
		3	0	0.0%
		4	0	0.0%
		0（無回答）	4	14.3%









1．十分身に付けることがができた　2．ある程度身に付けることができた
3．あまり身に付けることができなかった　4．全く身に付けることができなかった

図１

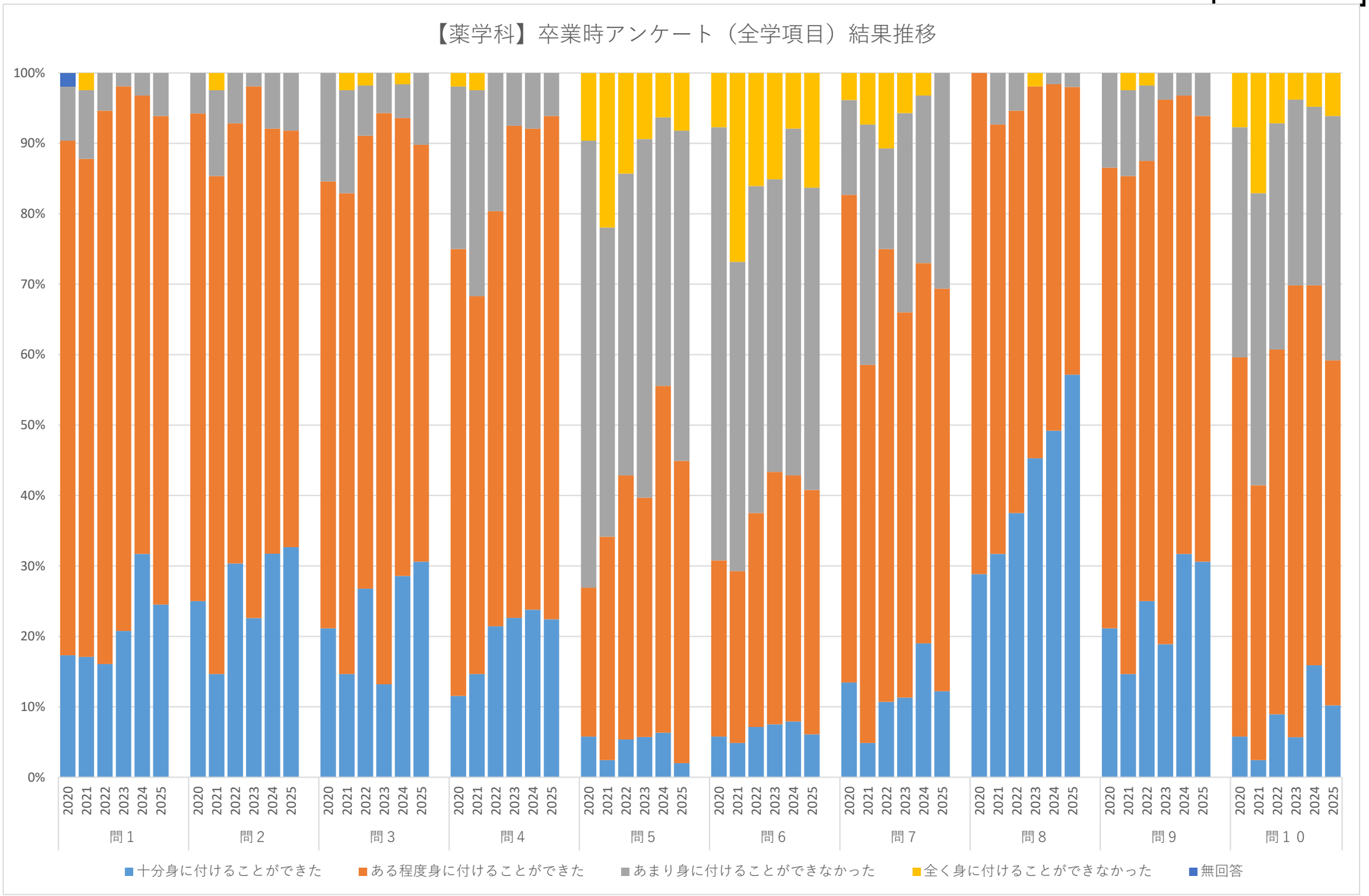

【薬学科】卒業時アンケート（全学項目）結果推移
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
2020
2021
2022
2023
2024
2025
問１
問２
問３
問４
問５
問６
問７
問８
問９
問１０
十分身に付けることができた
ある程度身に付けることができた
あまり身に付けることができなかった
全く身に付けることができなかった
無回答

図２

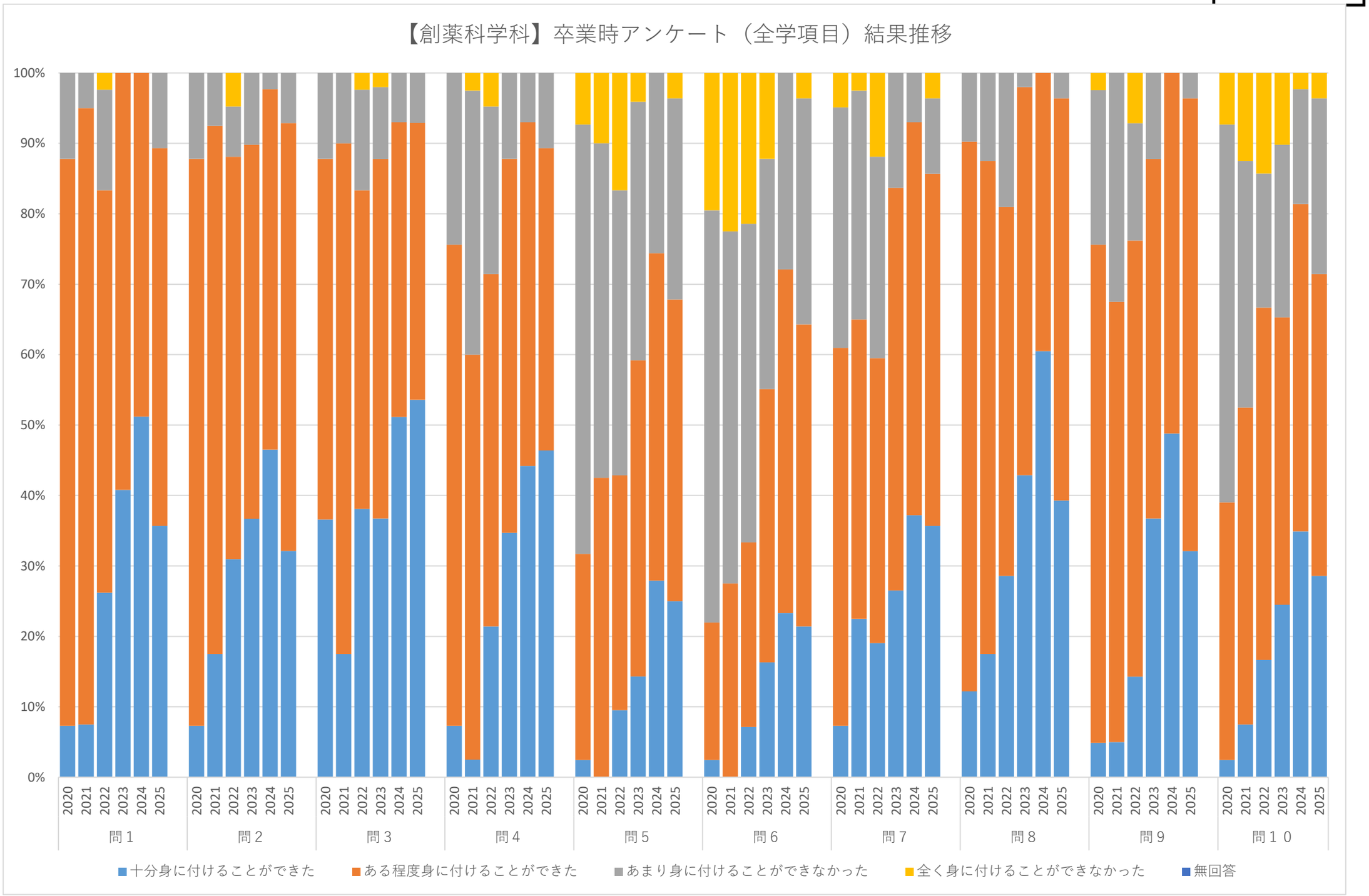

【創薬科学科】卒業時アンケート（全学項目）結果推移
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
2020
2021
2022
2023
2024
2025
問１
問２
問３
問４
問５
問６
問７
問８
問９
問１０
十分身に付けることができた
ある程度身に付けることができた
あまり身に付けることができなかった
全く身に付けることができなかった
無回答

図 3

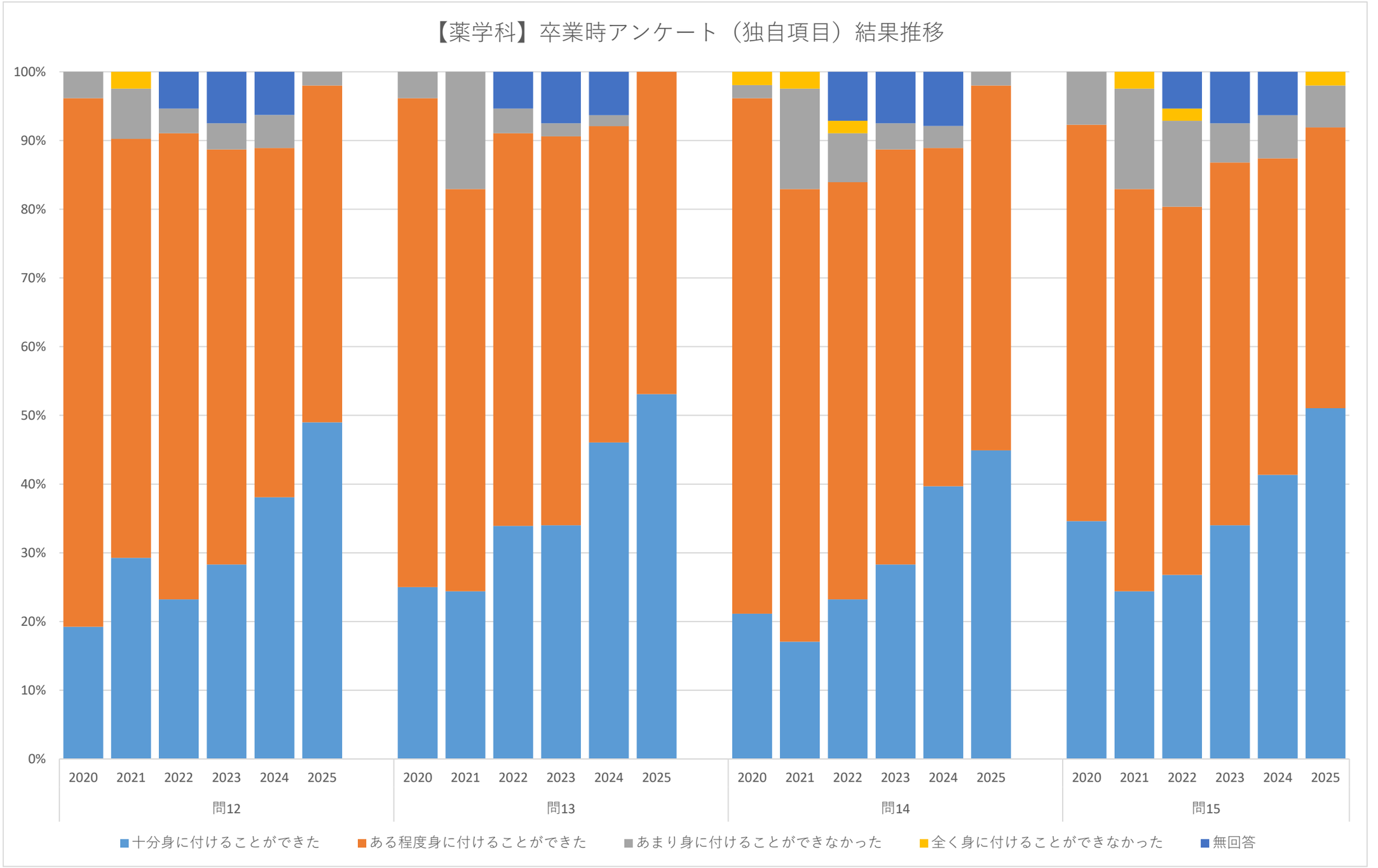
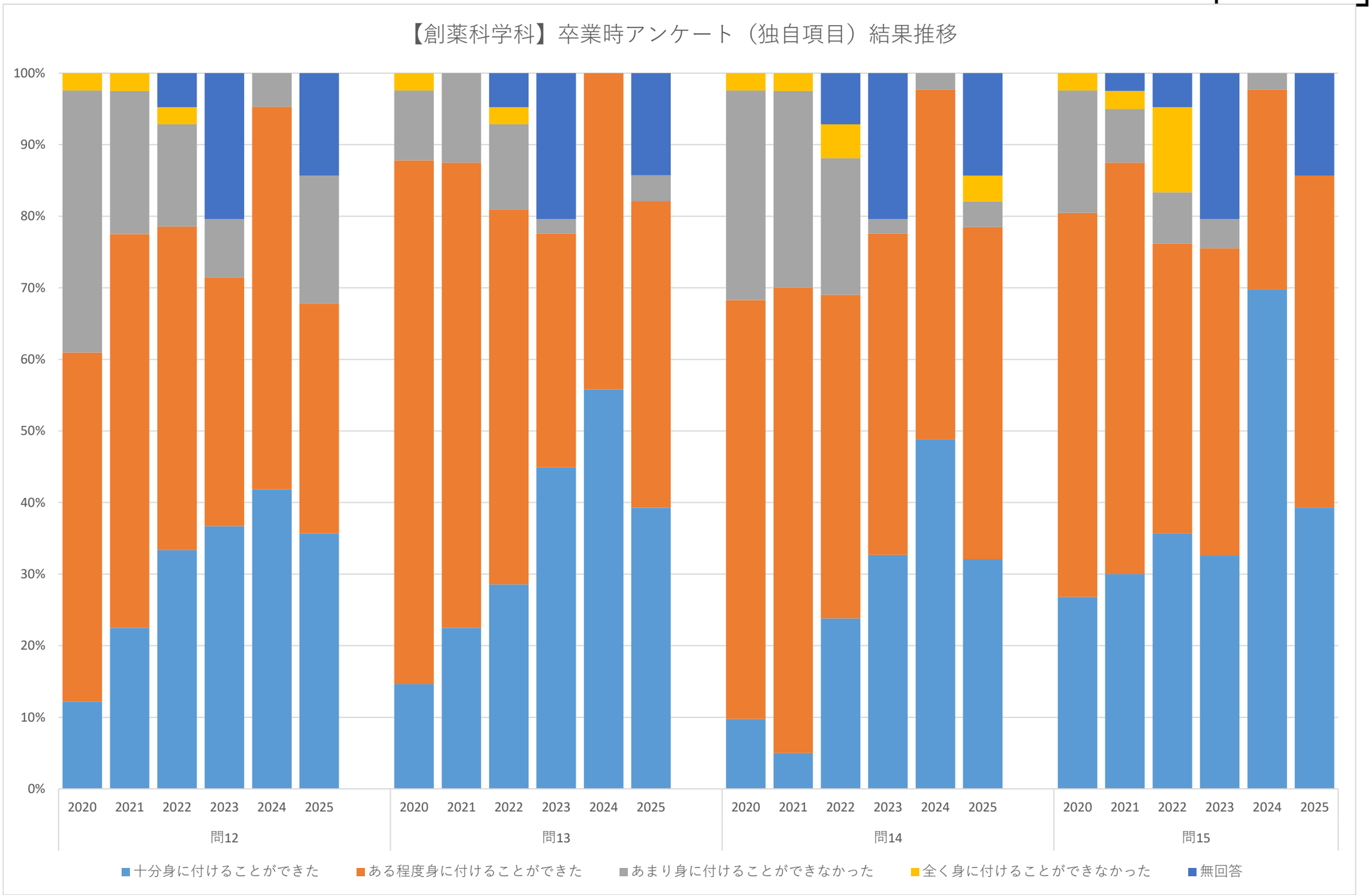

【薬学科】卒業時アンケート（独自項目）結果推移
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問12
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問13
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問14
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問15
十分身に付けることができた
ある程度身に付けることができた
あまり身に付けることができなかった
全く身に付けることができなかった
無回答

図４


【創薬科学科】卒業時アンケート（独自項目）結果推移
100%
90%
80%
70%
60%
50%
40%
30%
20%
10%
0%
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問12
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問13
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問14
2020 2021 2022 2023 2024 2025
問15
十分身に付けることができた
ある程度身に付けることができた
あまり身に付けることができなかった
全く身に付けることができなかった
無回答

薬学部（薬学科）の3つのポリシー　　【 学士（薬学） 】

大学の目的 （学則 第3条）
本学は，地域と世界に向かって開かれた大学として，生命科学，自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い，人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し，地域と国際社会に貢献するとともに，科学，芸術文化，人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的 （学部規則等から抜粋）
薬学部では，薬の理解と薬学研究を通じて，人類の健康，福祉，衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成することを目的とする。 薬学科では，広い視野と高度な知識と研究力を持ち，和漢薬を含めた広範な東西医療分野で活躍し，医療に関する社会的ニーズに対応できる薬剤師などを育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【卒業認定・学位授与方針】 薬学科では，人類の健康，福祉，衛生及び健全な社会環境の保全と向上に貢献できる人材を育成するため，定められた教育課程で十分な学修成果を上げ，以下に示す「幅広い知識」，「専門的学識」，「問題発見・解決力」，「社会貢献力」，「コミュニケーション能力」を身に付けた者に学士（薬学）を授与する。	【教育課程編成方針】 薬学科では，卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる5つの能力を学修するため，教養教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し，地域及び国内外の病院，企業，行政などから必要とされる薬剤師として活躍するための教育を実施する。 【教育課程実施方針】 6年間の学修を通じて，薬剤師として必要な教養と基礎科学，基礎薬学及び医療薬学の多岐にわたる専門分野での学識を深めるためのカリキュラムを編成する。 ・1年次においては，教養教育の卒業要件単位を修得するための講義・実習・実技科目を主体とし，専門分野への導入教育も並行して実施するとともに，地域と連携した講義や早期体験学習を行う。 ・2年次においては，物理，化学，生物系の基礎科学を主とした講義科目と，基礎科学系及び医療系の基礎薬学実習を実施する。 ・3年次においては，生物，薬剤，薬理，衛生，医療系分野を主とした講義科目，及びとやま薬学演習を実施するとともに，地域と連携した講義，演習，インターンシップを実施する。また，卒業研究を開始する。 ・4年次においては，医療系分野の講義科目と，臨床実務実習に備えて臨床前実習を実施する。また，卒業研究を継続する。 ・5年次においては，薬局・病院における臨床実務実習を実施する。また，卒業研究を継続する。 ・6年次においては，卒業研究を主として実施するとともに，基礎薬科学の反復教育とアドバンスト教育を実施する。また，希望者に対して短期海外派遣を行う演習科目を実施する。	【入学者受入れの方針】 薬の理解と薬学研究を通じて，人類の健康，福祉，衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成するに当たり，薬学科では，次の人材を求める。 ・薬剤師としての高度な学識と職能を得たい人 ・医薬品の研究や臨床開発に携わることで人類と社会に貢献したい人 ・東西医薬学の融合による統合医療の実践を目指す人 ・医療や保健衛生の分野で社会に貢献したい人 ・地域や国内外の医療，研究，行政に薬剤師として貢献したい人 【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】 一般選抜（前期日程） 大学入学共通テストでは，基礎学力を評価する。 本学では，「数学」及び「理科」を課して，数学力，理解力，応用力，表現力，科学的思考力等を評価する。 一般選抜（後期日程） 大学入学共通テストでは，基礎学力を評価する。 本学では，「小論文」及び「面接」を課して，論理的思考力，文章表現力，学習意欲，適性等を評価する。 総合型選抜Ⅰ（研究者養成枠） 本学では，第1次選抜として，書類審査（自己推薦書，調査書）及び「総合問題」を課して，学習到達度，自己分析力，積極性，薬学を学ぶために必要な教科・科目の基礎学力を評価する。第1次選抜合格者に対して，「面接」及び「プレゼンテーション」を課し，志望動機，薬学を学ぶ目的意識，大学院への進学意欲，探究心に加え，論理的思考力，判断力，表現力，主体性，多様性，協働性，協調性を総合的に評価する。 総合型選抜Ⅰ（地域枠） 本学では，第1次選抜として，書類審査（自己推薦書，調査書）及び「総合問題」を課して，学習到達度，自己分析力，積極性，薬学を学ぶために必要な教科・科目の基礎学力を評価する。第1次選抜合格者に対して，「面接」及び「プレゼンテーション」を課し，志望動機，薬学を学ぶ目的意識，地域医療に対する理解，富山県内への貢献意欲に加え，公正さ，責任感，判断力，積極性，主体性，協働性，協調性を総合的に評価する。 学校推薦型選抜，帰国生徒選抜 本学では，「書類審査」，「総合問題」及び「面接」を課して，学習到達度，科学的思考力，文章表現力，学習意欲，適性等を評価する。 私費外国人留学生選抜 日本留学試験では，日本語力，理科及び数学の基礎的学力を評価する。 本学では，「数学」及び「理科」を課して，数学力，理解力，応用力，表現力，科学的思考力等を評価し，「面接」により学習意欲，適性等を評価する。 【入学前に学習すべきこと】 薬学は，広範で多様な学問分野から成っているため，入学までに，化学，物理学，生物学，数学，語学の基礎学力を付けておくことが望ましい。

【学修成果の到達目標】		【学修内容，学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
幅広い知識	【学修成果】 人文科学・社会科学・自然科学・健康科学の諸分野を学際的に捉え，多様な文化的・歴史的背景を持った地域や社会を理解し，行動する能力を身に付けている。また，「くすり」の観点からの地域や国内外の歴史と現状について理解し，医療，研究，行政に貢献する能力を身に付けている。 【到達指標】 教養教育科目の卒業要件単位を修得していること。	【学修内容】 幅広い視野から物事を捉え，高い倫理性に基づいた判断ができる人材に成長するため，教養教育において人文科学・社会科学（語学を含む）の講義科目を学修する。また，薬学専門教育への橋渡しとして，自然科学・生命健康科学系の理系基盤教育科目を学修する。さらに，地域と連携した講義科目，演習科目を学習する。 【学修方法】 講義科目では理解度の向上を図るためアクティブラーニングで学修する。語学では少人数授業で，また一部の理系基盤教育科目では理解度に応じたクラス編成で学修する。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。学生個々の「幅広い知識」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 教養教育を受けるにふさわしい基礎知識を身に付けている。 教養教育に対する深い関心と学ぶ意欲を持っている。 「くすりの富山」としての地域に対する関心と貢献意欲を持っている。

【学修成果の到達目標】		【学修内容，学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
専門的学識	【学修成果】 基礎科学に裏打ちされた，医薬品等の安全性と有効性に関する深い学識，情報・科学技術に関する専門知識と規範意識，及び薬剤師業務に必要な基本的技能を修得し，和漢薬を含む薬物療法の実践及び公衆衛生の向上に寄与する能力を身に付けている。 【到達指標】 専門教育科目（講義及び実習）の卒業要件単位を修得し，薬剤師として必要な知識・技能を身に付けていること。	【学修内容】 実践的な薬学を学ぶために必要な，物理，化学，生物系の基礎科学教育を重点的に学修する。その学修成果を土台とし，薬剤，薬理，衛生，医療系講義を体系的に学修し，さらに医療データサイエンス科目や実務経験者による実践的講義等を学修する。各専門分野の実習では，体験に基づくより深い学修と実験技術を修得する。また，病院及び薬局における臨床実務実習で，薬剤師業務に必要な技能を修得する。 【学修方法】 理解度の向上を図るため，視聴覚教材等を随時使用した講義で学修する。また，授業外学修を推進し，自ら学ぶ力を養う。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。年次進行とともに体系的な学習が必要になることから，各年次において次年次への進級要件単位数を設定している。学生個々の「専門的知識」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 薬学を学ぶために必要な基礎知識，語学力，理解力，論理的思考能力を身に付けている。
問題発見・解決力	【学修成果】 健康と疾患に対する深い洞察力を持って，地域や国内外における薬学関連分野の問題や課題に取り組み，学術情報の収集・分析及び実験等の研究活動を通して得られる結果を論理的に考察し，解決に向けて議論・発表できる能力を身に付けている。 【到達指標】 とやま薬学演習及び卒業研究において，学修成果に挙げる能力を修得していること。	【学修内容】 学修した専門知識を最大限活用して，医薬品に関する調査・分析や地域医療・産業に関する課題抽出を行う能力を，とやま薬学演習で学修する。また，卒業研究では，各研究室において学生ごとに課題を設定し，その解決に向けて研究活動を行う。得られた成果の発表会を行い，効果的なプレゼンテーションや質疑応答に必要な技術・能力を修得する。 【学修方法】 アクティブラーニングを導入した学修や，教員の指導の下，学生が主体的に調査・分析・実験等の研究を行う。 【学修成果の評価方法】 作成した卒業論文と，発表会における発表と質疑応答をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。その評価において，ルーブリックによるパフォーマンス評価を取り入れる。学生個々の「問題発見・解決力」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 地域や国内外における，薬学関連分野の課題に対し，調査・分析・実験等により解決策を導き出す意欲を持っている。
社会貢献力	【学修成果】 医療人としての規律，倫理等を守り，患者及び医療に関わる全ての人々の立場を理解しながら，薬剤師として果たすべき役割を認識し，チーム医療・地域保健医療に対して責任ある行動をとる能力を身に付けている。 【到達指標】 薬学概論，医療人教育に関わる科目，基礎薬学実習及び臨床実務実習の単位を修得し，地域や国内外に貢献する医療人として責任ある行動をとることの重要性を理解していること。	【学修内容】 薬学概論では，初年次教育として研究室訪問や薬局・病院見学を行うとともに，薬事行政について学ぶ。 医療学入門において，早期臨床体験の一環として介護体験実習及び心肺蘇生講習を受講する。 各学年に配置された医療人教育に関わる科目，及び基礎薬学実習や臨床実務実習でのグループ活動を通して責任感や協調性など，医療人として必要な社会性を修得する。また，臨床実務実習を通じて，医療現場における薬剤師の果たす役割を学修する。 【学修方法】 地域や国内外を意識した講義や各種実習，学外での体験学修，及び臨床実務実習を行う。 【学修成果の評価方法】 レポートや実習評価表をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。その評価において，ルーブリックによるパフォーマンス評価を取り入れる。学生個々の「社会貢献力」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 高度な学識と職能を有する薬剤師として，社会に貢献する意欲を持っている。 医薬品の研究や臨床開発に携わることで，人類と社会に貢献する意欲を持っている。 医療や保健衛生の分野で，地域や国内外に貢献する意欲を持っている。
コミュニケーション能力	【学修成果】 他者との積極的な意思疎通を図り，共に学ぶ姿勢を心がけることで，豊かな人間関係を築きながら自己の成長へとつなげることに努め，地域や国内外における異なる考えや言語文化を有する人々の立場を理解し，誠実かつ柔軟なコミュニケーションを取る能力を身に付けている。 【到達指標】 とやま薬学演習，基礎薬学実習，臨床実務実習及び卒業研究の単位を修得し，指導教員，他の学生（大学院生や留学生を含む），地域の指導薬剤師，製薬企業人及び行政担当者や国内外の企業人，研究者等と良好な人間関係を構築していること。	【学修内容】 講義や実習での同級生とのコミュニケーションを通して，友人や仲間と豊かな人間関係を構築しながら，学識向上を図る。また，研究室での研究活動や臨床実務実習を通して，指導教員，他の学生（大学院生や留学生を含む），地域の指導薬剤師，製薬企業人及び行政担当者や国内外の企業人，研究者等との協力関係や信頼関係を深め，業務遂行上必要なコミュニケーション能力を向上させる。 【学修方法】 アクティブラーニング形式の講義，実習，とやま薬学演習におけるグループワーク，研究室での研究活動，及び臨床実務実習を行う。 【学修成果の評価方法】 試験又は発表会を実施し，その成果をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。その評価において，ルーブリックによるパフォーマンス評価を取り入れる。学生個々の「コミュニケーション能力」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 地域や国内外の多様な社会の中で，相手に働きかけて意思の疎通を図り，豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていく意欲を持っている。

薬学部（創薬科学科）の3つのポリシー　　【 学士（薬科学） 】

大学の目的 （学則 第3条）
本学は，地域と世界に向かって開かれた大学として，生命科学，自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育および研究を行い，人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し，地域と国際社会に貢献するとともに，科学，芸術文化，人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。

学部（学科）の教育研究上の目的 （学部規則等から抜粋）
薬学部では，薬の理解と薬学研究を通じて，人類の健康，福祉，衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成することを目的とする。 創薬科学科では，広い視野と高度な知識と研究力を持ち，創薬・ライフサイエンス・和漢薬を含めた東西医薬の関連分野を中心に活躍する研究者・技術者などを育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【卒業認定・学位授与方針】 創薬科学科では，人類の健康，福祉，衛生及び健全な社会環境の保全と向上に貢献できる人材を育成するために定められた教育課程で，十分な学修成果を上げ，以下に示す「幅広い知識」，「専門的学識」，「問題発見・解決力」，「社会貢献力」，「コミュニケーション能力」を身に付けた者に学士（薬科学）を授与する。	【教育課程編成方針】 創薬科学科では，卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる5つの能力を学修するため，教養教育科目及び専門教育科目を体系的に編成する。 【教育課程実施方針】 ・4年間の学修を通じて薬学研究者として必要な教養と物理，化学，生物，医療の専門分野での学識を深めるためのカリキュラムを編成する。 ・1年次においては，教養教育の卒業要件単位を修得するための講義・実習・実技科目を主体とし，専門分野への導入教育も並行して実施する。 ・2年次においては，物理，化学，生物系の基礎科学を主とした講義科目と，基礎科学系及び医療系の基礎薬学実習を実施する。後期からは，創薬・和漢薬・脳機能で特徴付けられる各専門コースに分属し，特別専門実習を実施する。 ・3年次においては，生物，薬剤，薬理，衛生，医療系分野を主とした講義科目及び総合薬学演習を実施する。また，卒業研究を開始する。 ・4年次においては，卒業研究を主として実施する。	【入学者受入れ方針】 薬の理解と薬学研究を通じて，人類の健康，福祉，衛生及び健全な社会環境の保全に貢献できる人材を育成するに当たり，創薬科学科では，次の人材を求める。 ・薬学関連の研究分野で国際的に活躍したい人 ・新薬の研究に携わることで人類と社会に貢献したい人 ・東西医薬学の融合による医薬品の創出を目指す人 ・疾患に関連する現象や物質に対して興味と研究心を有している人 ・生体メカニズムの解明やそのための新しい方法論の開拓に挑戦したい人 【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】 一般選抜(前期日程) 大学入学共通テストでは，基礎学力を評価する。 本学では，「数学」及び「理科」を課して，数学力，理解力，応用力，表現力，科学的思考力等を評価する。 一般選抜(後期日程) 大学入学共通テストでは，基礎学力を評価する。 本学では，「小論文」及び「面接」を課して，論理的思考力，文章表現力，学習意欲，適性等を評価する。 学校推薦型選抜，帰国生徒選抜 本学では，「書類審査」，「総合問題」及び「面接」を課して，学習到達度，科学的思考力，文章表現力，学習意欲，適性等を評価する。 私費外国人留学生選抜 日本留学試験では，日本語力，理科及び数学の基礎的学力を評価する。 本学では，「数学」及び「理科」を課して，数学力，理解力，応用力，表現力，科学的思考力等を評価し，「面接」により学習意欲，適性等を評価する。 【入学前に学習すべきこと】 薬学は，広範で多様な学問分野から成っているため，入学までに，化学，物理学，生物学，数学，語学の基礎学力を付けておくことが望ましい。

【学修成果の到達目標】		【学修内容，学修方法および学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
幅広い知識	【学修成果】 人文科学・社会科学・自然科学・健康科学の諸分野を学際的に捉え，多様な文化的・歴史的背景を持った地域や社会を理解し，行動する能力を身に付けている。 【到達指標】 教養教育科目の卒業要件単位を修得していること。	【学修内容】 幅広い視野から物事を捉え，高い倫理性に基づいた判断ができる人材に成長するため，教養教育において人文科学・社会科学（語学を含む）の講義科目を学修する。また，薬学専門教育への橋渡しとして，自然科学・生命健康科学系の理系基盤教育科目を学修する。 【学修方法】 講義科目では理解度の向上を図るためアクティブラーニングで学修する。語学では少人数授業で，また一部の理系基盤教育科目では理解度に応じたクラス編成で学修する。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。学生個々の「幅広い知識」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 教養教育を受けるにふさわしい基礎知識を身に付けている。 教養教育に対する深い関心と学ぶ意欲を持っている。
専門的学識	【学修成果】 物理学，化学，生物学等に基づき，和漢薬を含む伝統医薬学から先端薬学までの創薬科学に関する幅広い学識，及び情報・科学技術に関する専門知識と規範意識を修得・展開し，医薬品創出を目指した研究・開発に取り組むために必要な創造的思考力と実験技術等を身に付けている。 【到達指標】 専門教育科目（講義及び実習）の卒業要件単位を修得していること。	【学修内容】 実践的な薬学を学ぶために必要な，物理，化学，生物系の基礎科学教育を重点的に学修する。その学修成果を土台とし，薬剤，薬理，衛生，医療系講義を体系的に学修し，さらに創薬データサイエンス科目や実務経験者による実践的講義等を学修する。各専門分野の実習では，体験に基づく，より深い学修と実験技術の修得を行う。 【学修方法】 理解度の向上を図るため，視聴覚教材等を随時使用した講義で学修する。また，授業外学修を推進し，自ら学ぶ力を養う。 【学修成果の評価方法】 試験やレポート等をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。年次進行とともに体系的な学習が必要になることから，各年次において次年次への進級要件単位数を設定している。学生個々の「専門的知識」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 薬学を学ぶために必要な基礎知識，語学力，理解力，論理的思考能力を身に付けている。
問題発見・解決力	【学修成果】 自然現象に対する強い知的好奇心・探究心を持って薬科学関連分野の課題に取り組み，学術情報の収集・分析及び実験等の研究活動を通して得られる結果を論理的に考察し，解決に向けて議論・発表できる能力を身に付けている。 【到達指標】 総合薬学演習及び卒業研究において，学修成果に挙げる能力を修得していること。	【学修内容】 学修した専門知識を最大限活用して，医薬品に関する調査・分析を行う総合薬学演習で学修する。また，卒業研究では，各研究室において学生ごとに課題を設定し，その解決に向けて研究活動を行う。得られた成果の発表会を行うことで，効果的なプレゼンテーションや質疑応答に必要な技術・能力を修得する。 【学修方法】 アクティブラーニングを導入した学修や，教員の指導の下，学生が主体的に調査・分析・実験等の研究を行う。 【学修成果の評価方法】 発表会を実施し，発表と質疑応答を行い，その成果をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。学生個々の「問題発見・解決力」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 薬学関連分野の課題に対し，調査・分析・実験等により解決策を導き出す意欲を持っている。
社会貢献力	【学修成果】 医療人としての規律，倫理等を守り，患者及び医療に関わる全ての人々の立場を理解しながら，創薬科学研究者として果たすべき役割を認識し，地域と国際社会に対して責任ある行動をとる能力を身に付けている。 【到達指標】 薬学概論，製薬企業概論，富山のくすり学，薬学経済の単位を修得し，社会で責任ある行動をとることの重要性を理解していること。	【学修内容】 薬学概論や製薬企業概論では，初年次教育として研究室訪問や製薬企業見学，グループ討論等を行う。基礎薬学実習では，グループでの活動を通して責任感や協調性など，創薬科学研究者として必要な社会性を修得する。また，富山のくすり学，薬学経済では，社会人による講義を実施し，医療産業や職種の現状理解と，キャリア形成への助言等を得る。 【学修方法】 通常の講義や各種実習，及び学外での体験学修を行う。 【学修成果の評価方法】 レポート等をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。学生個々の「社会貢献力」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 専門的知識と技術を基にして，社会に貢献できる研究者を目指す意欲を持っている。 新薬の研究に携わることで，人類と社会に貢献する意欲を持っている。
コミュニケーション能力	【学修成果】 他者との積極的な意思疎通を図り，共に学ぶ姿勢を心がけることで，豊かな人間関係を築きながら自己の成長へとつなげることに努め，異なる考えや言語文化を有する人々の立場を理解し，誠実かつ柔軟なコミュニケーションをとる能力を身に付けている。 【到達指標】 総合薬学演習，基礎薬学実習及び卒業研究の単位を修得し，指導教員及び学生（大学院生及び留学生を含む）と良好な人間関係を構築していること。	【学修内容】 講義や実習での同級生とのコミュニケーションを通して，友人や仲間と豊かな人間関係を構築しながら，学識向上を図る。また，研究室での研究活動を通して，指導教員及び他の学生（大学院生や留学生を含む）との協力関係や信頼関係を深め，業務遂行上必要なコミュニケーション能力を向上させる。 【学修方法】 アクティブラーニング形式の講義，実習，総合薬学演習におけるグループワーク及び研究室での研究活動を行う。 【学修成果の評価方法】 試験又は発表会を実施し，その成果をもとに，シラバスに定めた評価方法で成績評価を行う。学生個々の「コミュニケーション能力」の修得度を関連科目の成績から算出し，レーダーチャートで可視化するとともに，ルーブリックによる到達度評価を取り入れることで学修成果の形成的評価及び総括的評価を行う。	【求める資質・能力】 多様な社会の中で，相手に働きかけて意思の疎通を図り，豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていく意欲を持っている。